

時計塔が時刻む 黒海内陸の古都

黒海地方の内陸、ホル山脈の麓に抱かれたギョイヌク。
オスマン帝国時代の歴史が薫り、訪れるだけで癒やされると評判の町は、
チッタスロー都市に登録されたことでその魅力がいっそう高まっている。

ギョイヌク (Göynük) は黒海地域のボル県に位置する小さな町だ。ボル県は黒海地方の中でも海に面していない内陸エリアで、イスタンブールから262km、アンカラから192kmと両都市の中間に広がる。ギョイヌクは県都ボル (Bolu) から南西へ約96kmの山間部にあり、イスタンブールからは車で約3時間の距離だ。

ひっそりと静かな佇まいが魅力の町だが、かつてはオスマン帝国の交易都市の一つだった。フリギア人、リディア

人、ペルシア人、古代ローマ人の支配を経て、14世紀にオスマン帝国の支配下に入った。歴史の名残りは20世紀初頭の伝統的なオスマン建築の街並みに見てとれる。100軒を超える白壁と赤い屋根の家々が山間の風景に溶け込み、そこだけ時間が止まったかのよう。家の多くは2階建てで、天井に装飾を施したりリビングルームや中庭があるのが特徴。これらの家屋はトルコ政府の指定を受け、保護・修復されており、現在はゲストハウスなどに利用されている。

家屋のほかにも、モスクやハمام (公衆浴場)、墓、噴水などが点在しており、町の歴史を物語っているのも興味深い。見どころは、ガーズィスレイマンパシャ (オスマン帝国第2皇帝) のモスクとハمامで、オスマン建築の中でも最古の例の一つといわれている。ギョイヌクの町を縫う細い路地を歩きながら古都の建築文化に触れるのもまた、旅に深みを与えるだろう。

こうした歴史的背景や自然と一体になれる場所としての魅力が評価され、

ギョイヌクは2017年にチッタスローに登録された。そのため、近頃は都会の喧騒に疲れた人やチッタスロー都市に惹かれる旅行者が癒やしを求めてやってくるようになってきている。

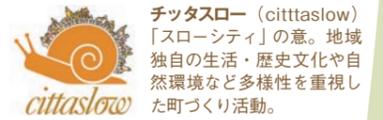
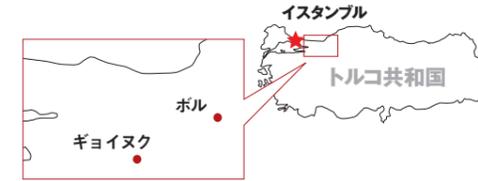
この牧歌的な町を一望するなら、まずは山の中腹に建つランドマーク、ピクトリータワー (ザフェル・クレスイ) を目指そう。3階建ての木造の塔は、トルコ共和国が建国された1923年にギョイヌク初の郡知事ハーシット氏により建設された。山の上から町を眺めるのはもちろん、町へ降りて見上げればシンボリックな雄姿を目にすることができる。

女性の自立促す工芸品

ギョイヌクが最も活気づくのは、毎週月曜に開かれる市場の日だ。普段は静かな町も、この時ばかりは周辺の村から人々が集まり熱気を帯びる。屋外市場に並ぶチーズやバター、マーマレード、パン、卵などの食品は多くが有機栽培や自家製のもの。ギョイヌクとその周辺は農業も盛んで、名産品にはシュガービーンズ (うずら豆) などがある。

Göynük

ギョイヌク



そのほか、市場には木彫り製品や木製のスプーン、手編みの靴下といった素朴な生活用品も並び、眺めているだけで町民の生活ぶりが目に浮かぶようだ。

ギョイヌクには伝統工芸品の1つに織物がある。代々女性が受け継いできたシャトル織織で、クラフトトレーニングセンターが設けられ、ここで製織の職業訓練を受けることができるようになっている。国民教育省とトルコ雇用機構による支援の下、女性の職業獲得を目的に造られたものだ。伝統を受け継ぐだけでなく、女性の生産性と地位向上に貢献する試みとして注目されている。

シャトル織織の工芸品にはストールやブラウス、バッグ、テーブルクロスなどがある。

郊外には、自然散策にお勧めの2つの湖がある。町から約12kmのチュブック湖と約27kmのスネット湖で、どちらも湖面に山や森が映り込むほどの美しさ。ギョイヌクは穏やかな気候が特徴で、湖畔散策やハイキング、ピクニックなどは、まさに自然を肌で感じることができるアクティビティーとしてうってつけだ。スネット湖畔にはブティックホテルやモーテルもあるので、滞在をじっくり楽しむのもいいだろう。



谷間に広がる風景と月曜市が見どころ

ギョイヌクは塔のある高台を囲むようにV字に川が流れ、谷間の斜面に白壁の民家が立ち並び緑豊かな町です。麓にはプラタナスの木陰が心地よいチャイパフチェ (オープンカフェ) のある広場と歴史的なハمامの面する広場があり、この2つの広場で月曜の定期市が開かれます。

野菜市の一角に村の生産物販売エリアがあり、周辺の村に住む女性たちが自家製の乳製品や加工品を販売しています。場所代を支払う露天商とは区別され、無料で自由に店を開くことが可能。店番をしながら近隣の村の女性や買い物に来た町の女性たちとおしゃべりを楽しめます。近郊の村の生産物販売エリアは地方都市の露天市の特徴です。

谷間の風景は、広場や高台からも必見ですが、伝統的民家に特徴的な2階部分の張り出した窓からの眺望こそ、ギョイヌクらしい風景を堪能できます。斜面に立ち並ぶ家々は隙間を空けながら窓からの眺望を確保しています。伝統的な暮らしの中で、多くを家で過ごす女性にとって、窓は外との大切な接点。対岸の景色だけでなく、路地の往来を眺め、隣家の女性と窓越しに会話することも。ホテルとして再生した邸宅もあり、窓際のソファに腰掛け、眺望をのんびりと満喫することもできます。

鶴田佳子氏
昭和女子大学
人間社会学部准教授
(研究テーマはトルコにおける
市場と都市空間の形態)



1町を一望できるピクトリータワー 2湖畔散策やハイキング、ピクニックが楽しめるチュブック湖 32002年に復元されたガーズィスレイマンパシャモスク 4白壁と赤い屋根が特徴の家々 5女性によって受け継がれてきたシャトル織織 6お土産にも最適なストール